

問 近年、しまくとうばに対する関心が高まっている。学校現場での、しまくとうば普及への取り組みを問う。

(教育長) 学校の授業での特別な取り組みはないが、町主催のうちなしごち大会に児童生徒が自由に参加している。

問 しまくとうば普及に対し
ての町行政の考え方どうか。

(町長) 南風原町は、それぞれの集落が特徴あるしまくとうばを持つていて、大事にしていかねばならない。地域や家庭では、しまくとうばを使える子どもが少なく、悲しいことである。しまくとうばを、大人の私たちが、子や孫に教え、伝えていくんだという意識を持つことが大事である。



大城 勝 議員

ふえーばるの しまくとうば普及は

答 子や孫に伝えていくという意識が大事

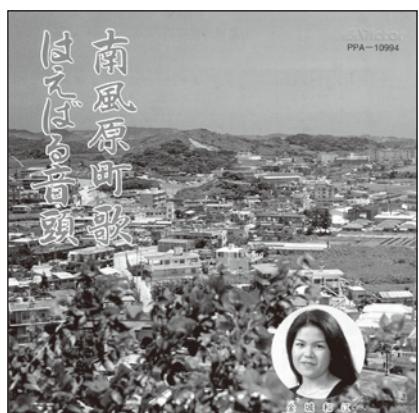
問 40年も前に作られた南風原町歌は、町民の心を強く鼓舞し、町の発展を高らかに歌っている。この町歌が多くの町民に広く普及していないのは実に残念である。普及への一案として役場1階ロビーの壁に大きなパネルでの町歌の歌詞を掲げることを提案する。もつと町歌に親しみが持て、町への愛着度を高めるのに効果的だと考える。

南風原町歌の普及を

(教育長) 地域でも読み方が違う。町の見解としては、しまくとうばで表記する場合はそれぞの地域での読み方で良いと考えている。

(教育長) わが南風原は、「ふえーばる」とも、「へーばる」とも言い方がある。一方、文献表記では「ふえーばる」がほとんどだと思う。それに関して行政の見解はどうか。

南風原町歌



(町長) 町民ホールに町歌を掲示し、多くの町民へ町歌の普及に努めたい。